低コスト・無料ＩＣＴツール導入で業務効率化

特養コスモス苑（札幌市豊平区）

介護の質向上、人材確保定着に期待

人材不足への対応、業務効率化等を目的にＩＣＴツールを導入する法人が増える中、中小規模施設ではコストやＩＣＴ機器を使いこなすことへの懸念などから、導入をためらう法人もある。札幌市豊平区で社会福祉法人彩世会の運営する特養コスモス苑（定員１００人）は低コスト、無料のＩＣＴツールを使って業務改善を促進するなど、取り組みを進めている。

２０２４年度介護報酬改定で「生産性向上を推進するための委員会設置」が義務付けられた。それまで介護記録の手書き等、アナログ手法が主だった同施設も、４月に生産性向上委員会を立ち上げた。委員会協議の中で、新井元規企画・連携室長（社会福祉士、ケアマネ）がプロジェクトリーダーとしてＩＣＴシステム導入に携わった。

同施設が導入したのは、記録電子化、情報共有迅速化を求める意見が多く挙げられた。そこで、記録電子化に伴う介護アプリ「Ｃａｒｅ Ｖｉｅｗｅｒ」、情報共有迅速化へビジネス利用に特化した通信アプリ「ＬＩＮＥ ＷＯＲＫＳ」の２つ。いずれも無料で、法人が職員に貸与するパソコン、スマートフォン、タブレットで利用できる。

新井室長はＩＣＴ導入による人材確保・定着も期待する

介護アプリはケア記録や医療処置内容等を入力。通信アプリは、それまで文書回覧、内線連絡が主だった施設スケジュール、家族面会情報などを共有できる。「今は職員がＩＣＴに慣れて、使いながら習得を進める段階にある。結果の検証はこれから」（新井室長）だが、職員へのアンケートで介護アプリでの電子入力に負担感を覚える人が一定数いると判明。習熟度向上のためサポートの必要性も再認識した。

導入の進まない施設の背景には、コストのほか、使いこなす人材育成、ＩＣＴ機器に対して抵抗感を持つ職員のいることも考えられる。低コストでの導入は苦手意識を持つ職員が身近にＩＣＴに慣れることで、さらなるテクノロジー導入につながる可能性もある。

新井室長は経営面の利点として導入の必要性を認識。業務効率化による介護の質向上のほか、ＩＣＴ機器・システム導入・活用をアピールすることで人材確保・定着にもつなげたい考えだ。職員への浸透のために、「事業所として方針を定め、きちんとビジョンを掲げることが肝要」と導入の意義、理念を職員に発信する重要性を示した。

同施設は今後も生産性向上推進体制加算取得を見越して、テクノロジー機器を複数導入しソフト・ハード両面でＩＣＴ機器のさらなる充実を図る予定だ。ケアプラン等作成、経営戦略策定では生成ＡＩ活用も視野に入れる。間接業務への生成ＡＩ、ＩＣＴ導入で利用者のケア、家族との対話など直接業務に充てる時間を、さらに増やせると展望している。

岩内・あけぼの福祉会など

丸紅基金助成、道内から9団体

丸紅基金は２０２４年度社会福祉助成先１４８件（総額２億９７４９万円）を選んだ。本道からは障害福祉法人やＮＰＯ法人など９団体で、岩内町・社会福祉法人あけぼの福祉会の食堂の床張り替えには１９０万円を助成する。

その他の助成先と対象案件は次の通り。（かっこ内は助成額）

▼安平町・ＮＰＯ法人コミュニティシンクタンクいんくるらぼ＝農園整備事業（３００万円）▼旭川市・社会福祉法人旭川青々会＝食洗器・冷蔵庫およびオーブン付きレンジ更新（１８９万円）▼札幌市中央区・さっぽろレインボープライド実行委員会＝ＬＧＢＴＱに関する冊子作製および配布（２００万円）▼同市東区・社会福祉法人ＨＯＰ＝玄関タイル改修工事（１１５万円）▼釧路市・ＮＰＯ法人学習支援ルーピス＝送迎用車両購入（３００万円）▼帯広市・大正地区地域食堂実行委員会＝業務用冷蔵庫設置工事（１５１万円）▼函館市・ＮＰＯ法人おはよう共同作業所＝乗用草刈り機等購入（２００万円）▼札幌市手稲区・社会福祉法人愛敬園＝乾燥シイタケ製造のための乾燥機購入（２６６万円）

みずほ福祉助成金 道内3団体に交付

みずほ福祉助成財団は２０２４年度社会福祉助成金交付先69件（総額４９３５万円）を発表した。本道からは障害福祉サービス、障害者支援を手掛ける３団体が選ばれた。

交付先と対象案件は次の通り。（かっこ内は助成額）

▼登別市・社会福祉法人登別さいわい福祉会＝送迎用車両整備（１００万円）▼札幌市社協＝点字プリンター整備（56万円）▼北見市・ＮＰＯ法人くぷぷ＝地域活動支援センター備品整備（38万円）

介護用品リサイクルASUKA

14・15日、在庫処分セール

北広島市のショールームで

介護用品リサイクルのＡＳＵＫＡ（北広島市）は半期に一度の在庫処分セールを14、15の両日、午前９時から午後５時まで同社ショールームで開く。

車いす・歩行器２００台など豊富な介護用品、福祉機器、病院施設備品を、中古品通常価格よりさらに２～３割引で販売する。新品・中古品とも全品保証付き。自助具、消耗品、シューズ、ベッド周り、衣類、おむつ、入浴用品を幅広く取り扱う。

ショールーム住所は同市大曲８２４番地55（仁別大曲線沿い）。問い合わせは☎０１１（３７０）３８５５。

豊富な介護用品・福祉機器を中古品通常価格よりさらに２～３割引で販売

瀬戸氏ら3人が受賞

道社会貢献賞（食生活改善功労）

２０２４年度道社会貢献賞（食生活改善功労者）を足寄町特養の瀬戸伊津子氏、登別市・三愛病院の安達輝重氏、札幌市の富永史子氏の３栄養士が受賞した。

瀬戸氏は十勝老人福祉施設協議会給食部会長、道栄養士会十勝支部幹事として食の大切さを学ぶ研修会の企画・運営、後進の人材育成に尽力した。

安達氏は道栄養士会室蘭支部長を務めたほか、個別栄養相談の実施、在宅ケア連絡会立ち上げに携わるなど地域住民の食生活と健康づくりに貢献した。

富永氏は23年３月まで同市豊平区・ＪＣＨＯ北海道病院に勤務し、調査・研究データを学会発表するなど病院栄養士の業務発展に寄与。道栄養士会副会長を務めたほか、市民公開講座等企画、災害時の食支援等講習会など道内栄養士の資質向上に力を注いだことが評価された。

10日、食と介護テーマに研修会

釧路市で道介護福祉士会釧根支部

道介護福祉士会釧根支部は研修会「食と介護～高齢者に必要な栄養素や食形態の変化による摂取栄養量の変化について」を、10日午後２時から釧路市愛国の中部地区コミュニティセンター・コアかがやきで開催する。

講師は同市で健康栄養コンサルティングとオリジナル化粧品販売などを担う「えいようラボラトリ」のいずれも代表社員の岡本匡代氏（管理栄養士）、佐々木可奈恵氏（同）。

食事を摂らない人、食事の際にむせる人、おかずを刻む必要性など、介護現場では食事に関する困りごとが多い。研修会では栄養介入、栄養ケア計画を立案する上で、管理栄養士が注目する事項について事例を交えて話す。

参加費は会員と学生５００円、一般１０００円。関心のある人は誰でも参加できる。専用フォーム（２次元コード）から申し込む。

問い合わせは☎０１５４（６５）１３３９（そよかぜ内、高澤氏）。

◆おことわり　連載「地域包括ケアを実現するために～２０４０年に繋ぐ診療報酬改定を読み解く～」は休みます。

15・16日、札幌で「ふくし用具機器展」

約50社が商品紹介、専門職向けセミナーも

道内最大級の福祉用具紹介イベント「ふくし用具機器展ｉｎさっぽろ２０２４」が15、16の両日、札幌市中央区の市社会福祉総合センターで開かれる。約50社が介護ロボット、寝具、車いすなどを紹介。各企業担当者から会場で直接、説明を受けられる。

福祉用具関連企業連絡会、日本福祉用具供給協会道支部、札幌市などでつくる同機器展実行委員会主催。会場では専門職向けセミナーも開催し、15日午前10時15分から岡田しげひこ道訪問リハビリテーション連絡会会長が「福祉用具の必要性と適切な選定方法」を、同日午後２時45分から伊藤昇平西11丁目法律事務所弁護士が「福祉専門職に対するハラスメント対策」をそれぞれ解説する。

セミナーは事前申し込み制で、８日までに２次元コードから。定員各50人で、参加無料。

問い合わせは実行委事務局（札幌市社協総務課）☎０１１（６１４）３３４５。